

○議長（吉田敏郎）

引き続き、一般質問を行います。

3番、武井正広議員、どうぞ。

○3番（武井正広）

皆さん、こんにちは。3番、武井正広です。

まず、はじめに一言、述べさせていただきます。この一般質問が、この現庁舎、この議場での最後の質問となります。約50年間、100名近い先輩議員の皆様が、開成町のためにこの場で質問されてきたことに感謝の意を込めて、質問させていただきます。

それでは、通告に従い1項目の質問をいたします。本町における幼児教育・保育の無償化に伴う課題と教育環境の充実を。

第五次開成町総合計画の「未来を担う子どもたちを育むまち」、これをつくっていく上で、教育環境の充実が最も重要な課題の一つであります。本町としても、開成幼稚園3年間教育の実施や民間保育園の新設等、さまざまな施策を行い、幼児教育や子育て環境の充実を目指してきました。しかし、人口増加や共働き家庭の増加等の影響により、本町においても待機児童が発生しはじめました。さらに、昨年10月から実施された幼児教育・保育の無償化や、今後、見込まれる人口増加への対応、そして質の高い教育を支えるためには、幼児教育・保育を含めた教育環境の整備も必要であると考えます。

また、本町は児童の増加に対応するため、10年前に開成南小学校を開校しましたが、それに伴い文命中学校の生徒も増加傾向にあります。今後、これらの課題に対応する必要があると考え、次の事項を問います。

①本町における幼児教育・保育の無償化に伴う課題と今後の対応は、

②待機児童対策は、

③児童・生徒の増加に伴う開成幼稚園、文命中学校の対応は。

よろしくお願いします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、武井議員の御質問にお答えをいたします。

一つ目の本町における幼児教育・保育の無償化に伴う課題と今後の対応について、お答えをいたします。

国の少子化対策の一環として、子育て家庭の経済的負担の軽減と幼児期の教育の重要性に鑑み、令和元年10月1日から幼児教育・保育の無償化が開始されました。これにより、市町村の認定を受けた子どもが国の示す基準を満たした幼稚園や保育園に通う場合、3歳から5歳の子どもの幼稚園保育料・保育所保育料が無償になりました。また、子ども子育て支援法の制度に移行していない私学助成幼稚園や保育の必要性がある子どもが認可外保育施設などを利用した場合、市町村の認定を受け

た子どもは上限額分まで無償になりました。

年度途中での制度改正のため、該当する方に確実に周知し、必要な手続をしていただくよう、保護者及び施設への通知や説明会など、近隣市・町とも連携しながら準備を進めてまいりました。また、条例改正や規則の制定などの整備と、電算システム改修や人件費など準備に必要な予算の確保と無償化に伴う新しい給付制度に対応するための予算を確保して、スムーズに開始することができましたが、課題としては待機児童が発生しているところであります。

しかしながら、今回の制度を適切に行う過程で、3歳から5歳の子どもの所属状況の全体像が見えたことや、認可外保育施設やベビーシッター事業所など、地域の社会資源を正式な形で把握することができました。これらのことは、今後、町の子育て支援全体を考える上でメリットと捉えております。

二つ目の、待機児童対策についてお答えをいたします。

開成町では、若い世代の定住促進のため、子育て支援と保育の確保に力を入れてきました。その結果、0歳から5歳の未就学児童の人口で見ますと、平成22年から平成28年までは横ばい状態でありましたが、平成29年以降は増加し、平成31年1月1日時点では1千40人と、過去10年間で最も多くなっております。

保育の確保策としては、平成23年に0歳から2歳までのお子さんを保育する30人定員の分園の増設を、平成29年度には90人定員の認可保育所の開設を支援し、実現をしてきました。また、行政間での協議を細やかに行うなど、できる限りの受け入れ調整をしてきました。しかし、令和元年10月1日時点で15人の待機児童が発生している状況であります。

今後の対策としましては、令和2年度から令和6年度までの5年間を見据えた、幼児教育・保育の量の見込みと確保方策を盛り込んだ第2期子ども・子育て支援事業計画を、今年度に策定をいたしました。本町の子ども人口は、令和6年度までは横ばい、または緩やかに減少していく見込みであります。保護者の働き方の変化や、幼児教育・保育の無償化など子育てを取り巻く社会制度の充実により保育ニーズが増し、今後も待機児童が発生することが懸念されます。

そこで、まず、待機児童の多い年齢であります0から2歳の保育を行う小規模保育施設の運営設置事業者の募集を令和2年度に行う予定であります。次に、保護者の多様な働き方に対応するため、令和3年度には開成幼稚園に通うお子さんの長時間、通年の預かり保育を開始することを検討しております。また、令和5年度に認可保育所または認定こども園の新設も視野に入れつつ、さらに状況を注視していきます。その他、近隣市・町との保育の広域受け入れ協議を引き続き行っていきたいと思っております。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

御質問の3項目めにつきましては、学校教育にかかわりますので、教育長の私か

らお答えさせていただきます。

三つ目の、児童・生徒の増加に伴う開成幼稚園、文命中学校の対応は、についてお答えいたします。

まず、子どもの人数ですが、先ほど町長がお答えしたとおり、第2期子ども・子育て支援事業計画では、令和2年度をピークに横ばいか、または緩やかに減少していくことが予想されております。このことから、現在の幼稚園、小学校、中学校の施設については、需要に見合った子どもを受け入れる要件を十分に備えているので、施設上の問題はないかと考えております。

一方で、義務教育施設でない開成幼稚園では、子どもの人数が横ばいか、または緩やかに減少していくことや、幼児教育・保育の無償化の影響を踏まえて適切な対応を図っていくことが課題として捉えております。御承知のとおり、開成幼稚園では、今年度から豊かな人間性や豊かな心を育む幼児教育を進めるため、3年間教育を開始いたしました。

平成31年4月当初において、開成幼稚園全体では、3歳から5歳までの町内在住幼児553名のうち、約46%に当たる255名の幼児が在園しております。この結果は、幼稚園から中学校まで一貫した教育方針による人づくりを行っていることや、大規模改修工事などの施設整備をはじめ、学級担任のほかに、多くの人材を現場に配置し、幼児が安全に、そして思い切り過ごせる環境づくりを行ってきた成果として捉えておりますが、これからも魅力的な幼児教育を実践していくことで町民に選ばれる幼稚園づくりを進めていきたいと考えております。

今後、町全体の教育環境は、社会状況の変化により、カリキュラムや子どもの人数の変化はありますが、これまでの幼稚園から中学校まで一貫した教育方針による人づくりを継続して行ってまいりたいと思っております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

非常に具体的な答弁をいただきました。それでは、再質問を行わせていただきます。

1の幼児教育・保育の無償化に伴う課題と今後の対応について、それから2の待機児童対策について、そして3の児童・生徒の増加に伴う開成幼稚園までは、少し関連していますので一緒に質問させていただきたいと思います。

まず、最初に述べたいのは、本町が今まで、まちづくりの中で若い世代の定住促進、子育て支援に力を入れてきたことは、私も教育委員をしていましたのでよく分かっています。その結果、合計特殊出生率は、ここ10年、県内では常にほぼ1位か2位、一度だけ4位はありますが、そして昨年1月1日現在で0歳から5歳の未就学児童の人口が過去10年で最も多い1千40人ということになっています。

町民の皆さんは、開成町の子育てに、この環境に期待しているのだと思います。

待機児童についても、つい最近までは待機児童ゼロという状態を保っていました。この取り組みには大変感謝しております。これが、今まで開成町が行ってきたまちづくりの大きな成果の一つだと思います。その上で質問させていただきます。

この無償化に伴う課題について、先ほど町長は待機児童が発生していることと答弁されました。もちろん、そこが一番のポイントなのですが、その課題のベースには、この無償化施策により開成町の中で幼稚園と保育園のバランスがこれからどうなっていくのかなということがあるのではないのでしょうか。もちろん、保育園は0歳から、そして幼稚園は3歳児からとはなりますが、この無償化施策により保護者の皆さんの考え方は変化していくと考えるべきであると考えます。

現在、町内在住の幼児の46%が開成幼稚園に通園しているということですが、おおよそ幼稚園と保育園の幼児の割合は、ほぼ半々ぐらいではないのでしょうか。しかし、無償化によって保護者の皆さんは働きやすくなりますので、今後、保育園に預けるような保護者が増えてくるように思いますが、いかがでしょうか。見解をお願いします。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

武井議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり、10月から無償化がはじまりました。幼稚園に入っても保育所に入れても費用がかからないというところで、保護者の方には非常に経済的な負担の軽減という形でメリットがございます。これから、今年度、子ども・子育て支援事業計画、いろいろな子育てを取り巻く環境の情報をいろいろ見ながら今後の予測を立ててまいりました。若い世代においては非常に、いただくお給料もまだまだ安定した状況ではないというところにおいても、二人とも働きながら仕事をして子育てをするという世帯はこれから増えるということで、こちらも想定してございます。

10月からスタートですので、具体的な幼児教育の無償化についての大きな影響というのは、まだ数字としてお伝えできるような状況ではないのですけれども、確かに、これから保育所に入れたいニーズは増えるということで、こちらも予測してございます。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ありがとうございます。やはり、今後は増えていく予測がされます。

そもそも、この無償化というのは、子育て世代の負担軽減、そして、より働きやすい環境をサポートしていこうということだと考えております。今後、保育園の需要が増えていくことが考えられます。ということは、当然、待機児童が今、話されたように増えていくということですよね。

先ほどの答弁でありましたが、昨年１０月現在で待機児童が１５人、緊急の課題として、この１５人、今後、増える可能性はありますが、どう解消していくか。最初の答弁では、さまざまな施策をこれから打っていくという話はありませんでしたが、令和２年度に小規模保育施設の運営設置事業者の募集を行う予定とあります。しかし、これは、実際は令和３年度から動くと考えて良いのでしょうか。令和２年度から、それが立ち上がって、そこですぐ受けられるということなら良いですけれども、もし、それに１年間あるということであれば、来年度、令和２年度の待機児童は解消できるのでしょうか。お願いします。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

御質問にお答えいたします。

待機児童は１０月時点で１５名ということで、現在、４月からの保育所協議はおおむね終わっています。また、これから年度末にかけて転出入等で移動する可能性もございますけれども、おっしゃるとおり、小規模保育事業、２年度に募集をかけていきますので、事業者が決定した場合には会場改修等をしながら令和３年度にスタートするという形なので、４月からの待機児童に対しては待っていただくというところになってしまう状況でございます。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○３番（武井正広）

小規模施設を募集していくという対策は打っても、やはり１年後になってしまうので、これからの１年間というのは待機児童が発生してしまう可能性が高いと。ただ、そうは言っても子育て世代、働こうとしている御家庭というのは緊急の課題なわけですから、先ほどの答弁の中でもありましたけれども、近隣市・町との広域の受け入れ協議も含めて、あと受け入れの定員の弾力化も含めて、極力、待機児童が少なくなるように、ぜひ努力していただきたいと思います。

今までずっと待機児童ゼロで開成町は来ていまして、待機児童というのは、僕が思うには、子育てする皆さんの安心なのだと思うのですよね。その町に住む。すごく開成町の、それこそ子育てをする基盤として大切なものだと思いますので、ぜひ、そこは努力していただきたいと思います。

さて、その先なのですけれども、ちょっと、ここでそもそも論を一つ、伺いたいことがあります。まず、第二期開成町子ども・子育て支援事業計画も今年度つくられたということなのですが、開成町の子どもたちの人数がどう推移していくのかなということを、もう一回、ちょっと考えたいなと。子どもの人口というのが、先ほどの答弁では令和２年をピークに令和６年度まで横ばい、または穏やかに減少していく見込みであるということですね。これは第二期子ども・子育て支援事業計画の中のベースとなる人口予測だとは思いますが、本当にこれで良いのでしょうか。

この人口予測というのは、開成町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、2016年4月につくられたものを参考にしているのではないかと思いますけれども、私は、そこが疑問になりまして、これからいろいろ質問していく中で、子どもたちがどうなっていくかという予測をきちんとしていかなければ、当然、次の施策もずれていくのではないかと思います。

それは、なぜかという、まずは去年の4月に開成駅に急行電車がとまったと。今、策定中の第二期開成町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、これから令和6年度までは1千500人、社会増の人口増加を目標にしているわけです。ましてや町長は、昨年私の一般質問の中で、個人的には2万人が目標だということを言っておられます。今後5年間、人口が増えて、私は、それに伴い子どもたちも増加すると考えます。例えば、この議場の中でも、皆さんの中で、昨年4月に急行が停車し、令和2年、来年度をピークに人口が減少すると思われる方が果たしているのでしょうか。

小田急線の小田原線の急行停車駅というのは、私が小さいころから急行停車駅が全然変わらない中で、今回、開成駅というのが急行停車になったわけです。確かに、何かをベースにさまざまな計画を立てるということは当然なのですが、そう考えると、創生人口ビジョンかもしれません。ただ、開成駅は特殊な事情で昨年、小田急線の急行停車駅になったわけですから、その想定というのをもう一度、考え直すことというのが必要なのではないかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

子どもというところの視点で、今回、計画を立てたところで申し上げますと、まち・ひと・しごと創生ビジョンの中の計画に沿って、町も29年度、30年度、町の人口が急激に増加して合計特殊出生率1.81をたたき出した時点の増加率を考えれば、もう少し伸びるかなというところで、こちら想定して一度、推計をしたのですけれども、実際に令和2年4月1日の現在の住民基本台帳の5歳までの人口で計画の数と照らし合わせたときに、平成31年の4月1日よりも減少しております。

そこにおいては、人口増加全体としては高齢者等も含めて増加するというところの方向としては、ある程度、見込まれるのですけれども、未婚率あるいは離婚率、あとお子さんの数のところをいろいろ勘案しますと、実際の数字と照らし合わせた時点で令和2年の段階では、そのような状況で減少傾向にあるというところで抑えてございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

済みません。人口ビジョンの見直しの話ですけれども、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計、これをベースに人口ビジョンをつくっているということもありますし、来年度、令和2年度のところで国勢調査が行われることを受けて、我々も令和3年度以降で人口ビジョンの見直しをしていくことを予定しておりますので。全体的な傾向として、これが急行云々ということで一時的に開成町、一部分だけで今までの推計が若干、後ろに遅れていく、人口減少の速度が遅れていくということはあるかもしれないですけど、全体的な推計の見直しというものの傾向が変わらない限りは、基本的には推計に従って人口ビジョンなどもつくっていくというふうに考えておりますので、全体の流れを見きわめて、人口ビジョンなどについても現状を踏まえて見直しをしていきたいと考えている状況でございます。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ありがとうございました。昨年に比べて、今年は一応、減少はしていると。ただ、令和2年度に国勢調査があるので、令和3年度で見直しをしてみると。ただ、一応、これを前提にしていくということですが、やはり、こういう特殊事情があるので、その辺は、ぜひ勘案しながら、さまざまな計画を立てていっていただきたいと思います。

さて、話を待機児童対策に戻しますが、先ほど私が話をしたようなことを想定していくと、当然のごとく、令和2年度、令和3年度に予定している小規模保育施設だけでは、当然、保育の需要を満たすことはできないということで、次のことを考えられていると思うのですが、先ほどの答弁の中で、次善の策として、令和3年度に開成幼稚園に通うお子さんの長時間、通年の預かり保育を開始するということが検討されているとありました。やはり、この幼児教育・保育の無償化をきっかけに、さらに開成幼稚園の質も上げていっていただきたいとは思いますが、その必要があると思います。ぜひ、選ばれる幼稚園にしていっていただきたいと思います。

そこで、この通年預かり保育というのは、どのようなイメージを持っておられるのでしょうか、具体的に説明いただけますでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えをいたします。

まず、開成幼稚園でございますが、原理原則といたしましては、教育長からも御答弁さしあげたとおり、魅力ある教育を推進していくことで選ばれる幼稚園としていきたいと考えてございます。ただ、しかしながら、やはり社会情勢の変化等によって子どもの人数が減ってきたときに、また、保育所に入りたいという需要が増えてきたときに、開成幼稚園としても、その受け皿としての一定の役割を果たす必要があるのではないかと現時点では考えてございます。

そういった中で、預かりということですが、今現在、開成幼稚園でやっている預かりにつきましては、幼稚園の給食がある日の午後、短時間、お子さんを預かると。預かる要件といたしましては、保護者の緊急的な用事がある場合に限って預かるといった形で実施してございます。ただ、ここで検討している預かりについては、時間を長時間とすること、それから夏休み等の長期休業期間中も同じように預かるといったこととしまして、簡単に言えば保育所と同じような要件で開成幼稚園でも預かりを行っていくということで、一つは保育所の待機児童対策の側面としても幼稚園としての機能を果たしていく必要があるのではないかと考えてございます。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

若干、補足をさせていただきます。

幼稚園の原理原則という課長からお話がありましたが、文科省が言っている幼稚園教育というのは4時間が原則です。保育時間、4時間。それに、やや幼稚園型の預かり保育というところを加味して考えていこうというところの検討に入っているという状態です。そこには、1号、2号、3号認定ということがあるということは、以前、室長からお話しさせていただいたところですが、2号認定の中で、短時間の就労をされている方たちを何とか幼稚園のほうに入園していただけるような状態をつくれないう、そうなれば待機のお子さんもかなり減るのではないかなというように若干の見通しもあって、それが可能かどうかという部分を今、検討しているところでございます。

ここには幼稚園教諭の勤務時間も当然ございますので、何時から何時まで預かるかということも、今度、園の先生方の労働というところの観点からも検討していかなければいけませんので、一応、その方向で進めてはいますが、結論を見るには至っていません。ただ、そういう検討に入っているということを御報告申し上げます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

2号認定の方を少しでも受け入れられる形をとれないかということで、令和3年度から。第二期開成町子ども・子育て支援事業計画を見ていくと、1日18人とか、令和4年から20人ということが記載されているのですが、そういうような想定をされているのですか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

今のところ、人数の枠という発想は持ってございません。いわゆる２号認定の方を一応ターゲットとしては考えているわけですが、どのぐらいのニーズがあるかというところについても、今後、調査研究していかなくてはならないというところもございますので、今、お話ししている話題のことがはじまった時点での人数の制限ということについては、ここでは何とも申しあげられない状況です。現在についての預かり保育については、１５人だったですね、１６時まで行っているのが現在です。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○３番（武井正広）

人数は今のところ想定はしていないと、限度を決めていないということで、ぜひ、令和３年度の小規模施設等を含めて、開成幼稚園の預かり保育という形も希望者のニーズに合うような形で進めていっていただきたいと思います。

現在、神奈川県一の園児が多い特徴的な開成幼稚園だからこそ、２５５名ですか、よりきめ細かい対応、そして、そうやって注目される幼稚園だからこそ、今まで以上に、開成幼稚園の教育とは何だろうということを、ぜひ突き詰めていっていただきたいと思うのですが、教育長、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

開成幼稚園、確かに県下の公立幼稚園では人数的な規模が一番多くございます。ですが、１０学級２５５名という規模で行っていて、近隣からは「オー・マイ・ゴッド」の世界だという話なのですが、議員の皆様方や町長部局の御協力、御理解のおかげでチーム保育ということを特に３歳児については行っております。担任プラス支援の方が２名という、豊かな指導者、見守る人材があって、保護者からは大変ありがたいという声をたくさん、今年度、聞くことができました。開成幼稚園にして良かったと。同時に、保護者とのさまざまなかかわりを幼稚園が持つようにしましたので、保護者育て、親育ちと言ったら良いのでしょうか、という、ともに子どもを育てるという、そういう幼児教育を開成幼稚園はしているかなという部分では、大いに自慢できるかなと思ってございます。

その部分では、保護者の働き方という部分も、確かに、世の中で推進しているのですが、同時に、幼児期はほんの数年しかございませんので、ぜひ、親子で過ごす、あるいは親育てという観点でも、開成幼稚園は特徴ある幼稚園として今後アピールしていきたいと思ってございます。基本は、「すてきさん」。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

基本は「すてきさん」と。最初の答弁でもありましたが、開成町の幼稚園、小学校、中学校、この連携した教育が開成町のすごさだという答弁もありました。私も、そう思います。ぜひ、そのような特徴のある教育を、より、していただきたいと思います。

最初の答弁の中で、義務教育施設でない開成幼稚園では、子どもの人数が横ばい、または穏やかに減少していくことや、幼児教育・保育の無償化などを踏まえて適切な対応を図っていくことが課題であるという話がありました。これからいろいろな環境の話にしていきたいと思うのですが、この適切な対応というのは、具体的にはどんなことをイメージされているのでしょうか。「適切」と言われてしまったら終わりなのですから、もし、イメージされていることがあったらお願いします。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

適切とは何だろうという話になってくるわけですが、一つは施設等の環境という部分がございます。それから、もう一つ、指導者側の環境というのもございますし、それから地域の環境というのもあるかと思います。それらが三位一体となったところで適切な環境かなという思いはしているわけですが、園の中ということで考えたときには、先ほども申しあげましたように、皆様方の御理解のおかげでさまざまな指導者をつけることができている、これはすごい環境だと思っていますし、適切以上、すごく成果が上がっているところです。やはり、子育ては人だと私は思っていますので、園の先生方も力をつけていただきたいということで園内の研修も実施しているところですが、ぜひ、来年度もいろいろな方の配置を願ってやみません。

それから、あれだけの園舎を大規模改修で立派によみがえらせていただいたという部分がございます。見ばえもとても良くて、あそこを通る方々がかわいい幼稚園、きれいな幼稚園ということの評価していただいております。中に入って、またびっくり驚きで、玄関を入るとダイヤモンドが並んでいるような床になっていると、LEDだ、エアコンがきいている、こんな幼稚園はないというような外部からの評価もいただいているところでございます。今のところ、そういう意味で、人も物もすごく適切な環境にしているなという思いがございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

適切というのは、ソフト面のところだとか、それから大規模改修をした状況だとかということ、今、教育長がおっしゃっていました。

それでは、私から何点か。実は、教育長も個人的にはすごく思っていることではないかななどと思いつつ言わせていただきたいのですが、今年度からはじまった3年間教育、園児数は255名、教室は全て使っています。10クラスの状態です。会議室も、今はありません。ましてや、年長さんは35人クラスと聞いています。今、小学校の1年生のクラスは30人定員ですよ。それよりも多い状況に、幼稚園の手がかかる園児たちになっていると。

一番最初の質問の中で、私も質問して答弁もありましたけれども、今後、園舎のキャパシティーというのは本当に大丈夫なのでしょうか。もう一度、質問させてください。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

キャパが大丈夫かというところです。一言で言うならば、大丈夫だという想定で進んでございます。今年度、園児数255、来年度220ぐらいになるのではないかと踏んでいます。今年度の年長児が105で、すごく人数が多い学年のようです。そういうことからすると、来年度は、そこまで膨らまないかなと思ってございます。よろしいでしょうか。

あと、会議室等がないという部分は、確かに、今年度の場合はうれしい悲鳴で、10教室中の10教室、全部使っておりますが、来年度については1教室、何とか多用途に使えるお部屋が確保できるかなと思ってございますし、PTA役員等の会合などは、南コミの会議室をお借りして今年度も実施しておりますが、そういうような形で、やりくりはできるかなと思っているのが現在です。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問と回答の中で、若干、補足をさせていただきます。

小学校1年生のクラスの人数単位なのですが、ただいま武井議員さんから30人という数字があったのですが、35人でございますので御承知おきいただければと思います。

また、大丈夫かというところでございますけれども、今、教育長からも答弁があったとおり、既存の近隣の南部コミュニティーセンター等を活用しながら、できるだけ充実した幼児教育を提供していくということの中で、大丈夫なようにきちんと工夫しながらやっていくというところで御理解いただければと思います。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

まず、済みません、1年生35人、間違えました。失礼しました。

一応、今、大丈夫だと。やりくりしながらやっているということですが、もともとの想定人口というのが、先ほどちょっと話をさせていただきましたが、急行とかは余り考えない上での人口想定ですから、今後、常に、そういったところはチェックしながら臨機応変に対応できるような、ぜひ、準備をしていっていただきたいと思います。

それでは、幼稚園で、もう二つほど、ちょっと私から心配がありまして。

まずは園庭が、やはり255人とかになると狭い。大丈夫だと言われるのかもしれないですけども、現に狭くて、いろいろなところを改良しながら少しずつ増やしている現状もあると聞いています。

それから、通園バスの問題。今、2台体制で2回、回しているのですか、と伺っていますが、そもそも今年度から子どもたちが増えてきたと、3歳児が、ということを考えてときに、今現在、通園で徒歩をせざるを得ない園児たちが約90人ぐらい、それからバスが約160人と聞いています。駅から例えば3歳児、4歳児が開成幼稚園まで歩いていく、お母さんと一緒に歩いていくのは、結構大変だなと思います。マクドナルドから3歳児、4歳児が歩いていくのは、大変ではないかなと思います。以前はバス便だったと思います。

では、その2台のバスで歩いている90人近くを全部カバーしようとする、やはり朝の通園だけでも2時間ぐらいはかかってしまうのではないのかなと。ということを見ると、この2台体制というのもどうなのかなと。もう一台、あっても良いのではないかなとは思ったりします。近隣市・町でも、大体、一つの幼稚園、もっと人数が少ない中で1台ずつぐらいは配置されているわけですから、これはやはり検討していく必要もあるのではないかと思いますし、幼稚園のことを一番理解されている教育長が一番分かっておられることではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問、教育長としてお答えいたします。

まず、園庭の件ですけども、園庭については、他の場所から開成幼稚園に途中で入園された方もかなりいらっしゃるのです。途中で入園してよろしいですか、などという問い合わせが相当あったものですから。初日、来られたときに、「園庭、こんなに広いのですか」という表現をされます。これ、私たちは普通、もっと広げたいという願いのある方もいらっしゃるのですが、あそこが普通だったのですが、そういう表現の方が多くて、「ああ、そうですか」ということで、開成町の幼稚園の施設の良さ、立地の良さ等も含めて、改めて思った記憶があります、園長時代。

それから、通園バスの件ですけれども、私は、あればあったで良いと思う部分もあるのですが、幼児のうちから、やはり体を動かしてほしいということはずっと思っていてまして、基本、歩くことだと、歩くことが子育ての一助になるはずだという思いがあります。まして、そこで親子で手をつなぎながら、景色を眺めながら、いろいろお話ししながら通園するのは、すごくすてきなことだなと思っているわけです。時間はかかっても、ゆっくりでもよろしいので、歩ける方は歩いて、交通安全なんかのお話をしながらとか、可憐な花が咲いていたら「たんぽぽ、咲いているね」とか、「ああ、富士山に雪、積もったね」とか、例えばですけど、そういう親子の会話をしながら安全に楽しげに園に来ていただけたら、すごく理想だなという思いはしています。

とは言いながら、台風の日とか、さまざまあるので、いろいろと御苦勞をかけているところもあるのですが、ベースとしては、そのような考えを私としては持っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

おっしゃられるとおり、それはお母さんと一緒に手をつないで、たんぽぽを見て、富士山を見て、すばらしいこと、すてきだと思います。私も、それは思います。しかし、現実、今までバスで通っていた方々が通えなくなっているという事実もあるわけなので、そこは、やはり、これから、より選ばれる幼稚園という見方の中でさまざまな検討をしていただければと思います。

時間も大分、進んできてしまっているのですけれども、続きまして、令和5年度に認可保育所または認定こども園の新設も視野にとありますが、やはり、ここも今後の開成町の人口動向だとか子育て環境というものを考えていくとすごく必要なことで、良いことを考えていただいているなと思うのですけれども、令和5年度に開設を視野ということで良いのでしょうか。そのあたりのタイミングを教えていただければ。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

議員の御質問にお答えいたします。

計画上、令和6年度、これから5年計画ということで令和6年が5年目に当たります、その時点では待機児童ゼロにするというところを目標にいたしまして、令和5年度までにはというところで。保育所を建設する場合、いろいろな準備がございます。県に申請を上げて準備までに2年間という時間を要するというところも勘案しまして、お子さんの人口の動向をこれから注視いたしまして、令和5年度までには準備したいと考えてございます。準備するかどうかを決断するというところで考

えてございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

済みません。ちょっと分からなかったところがある。令和5年度までに準備するということは、それを仮に決断したとしたときに、令和6年度から使えるような状況を、決断した場合には考えるということなのですか、令和5年度から使えるように考えるということなのですか。もう一度、お願いできますか。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

令和5年度には使えるようにするというところで考えてございます。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

とにかく、令和6年度、ゼロを目標と言っていましたけれども、明日にでもゼロを目標に、待機児童ゼロは目標にしなければいけないと考えています。できるだけスピーディーに対策をお願いします。

認定こども園についてですけれども、10年ぐらい前でしょうかね、私が教育委員をさせていただいていたときに本町でも検討されまして、当時は国の幼稚園と保育園を一体に考える、子ども家庭省の創設とかという話があったので、それにあわせて検討していこうかということがかなり話をされましたけれども、結局、子ども家庭省という創設が見合わせられたことによって、開成町のこども園というような検討をする想定も流れてしまい、結局、そのときは開成町は町の幼稚園と私立の保育園でいく流れになったと思います。

現在の開成幼稚園の置かれている状況をしっかりと考えて、開成幼稚園の認定こども園化ということもぜひ検討していただいて、保護者に選ばれるような園を目指していただきたいと思います。

そこで一回、ここで一つ確認をしておくのですが、待機児童対策全般として考えていくときには、令和2年度には、とりあえずいろいろなことを一生懸命頑張っただけでゼロに近いようなことを目指すと。令和3年度には、小規模保育施設がうまくいけばつくれるかもしれないので、そこで例えば受け皿をつくっていくと。そして、令和3年度は、同時に開成幼稚園の長時間の通年の預かり保育を何とかスタートしたいと。そして、令和5年度には、状況によっては認可保育所、または認定こども園というものをつくっていく、子育て環境を整備していくということでよろしいですね。

○議長（吉田敏郎）

子ども・子育て支援室長。

○子ども・子育て支援室長（田中美津子）

議員の、今の方向性でよろしいです。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

若干、補足させてください。

冒頭から申しあげており、幼児の人口、実態をよくよく注視しながらという前提のもとでの今のお話ということで、御承知おきいただけたらと思っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

分かりました。もちろん、子どもたちの人口に応じてということは、前提として理解はしております。

時間も大分、少なくなってきましたしまして。文命中学校のことを一つ、伺いたいと思います。令和3年度に大規模改修が予定されています。私が一番懸念している部分で、先ほどの今後の急行停車駅にもなったということの人口の増加、子どもたちの増加により、文命中のキャパシティーというものは本当に大丈夫なのだろうか、そうやって不安になっている方も町民の中にはいらっしゃいます。教育長は「大丈夫だ」という話があったのですが、では、逆に、どのくらいまでだったら大丈夫なのかということを教えていただけますか。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。

施設要件的な部分で申しあげますと、文命中学校につきましては、クラスルームが、18クラス置けるような要件を備えてございます。今現在、普通学級が14学級でございますので、あと4学級分ぐらいは、運用の仕方では大丈夫なような施設要件を備えているということで御理解いただければと思います。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

18クラスということは、3学年に分けると1学年6クラスまでは何とかキャパは大丈夫だと。ということは、1学年200人を超えても恐らく大丈夫だろうというふう認識しておきます。少し安心しました。

では、もう一つ。文命中学校、先ほども話をしましたけれども、幼稚園、小学校、

中学校の中で一体した子育て・教育を行っている開成町の中の最後のかなめになって、今、非常に良い状態だと私は前から見て思っています。ただ、文命中学校、環境ということの中で考えて、ソフトという部分を考えたときに、生徒は当然、増加していますから、幼稚園と同じように、よりきめ細かい生徒たちへの対応というのが当然、必要になってきます。先生方の生徒への対応というものも、当然、きめ細かくなっていかなければいけない。さらなる教育の質の向上も大切だと考えています。

特に、最近若い先生方が非常に多いですね。経験の少ない先生も多くなっていますが、そういった先生方に、やはり開成町の教育、そして文命中学校の教育というものをきちんと浸透させていただいて、より質を向上していったほしいと思うのですが、教育長、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えいたします。

生徒の具合は、とても私も良い状態だなと思っております。これは、もう本当に町民の皆様方のおかげだなという思いです。

さて、ただいまの若い先生が増えていて質を上げてというお話、これは、もう全国的な悩みであります。団塊の世代の教職員が退職し、若い世代、経験年数の浅い教職員が増えているのも事実としてあります。そんな中で、一つは、県費教職員の加配を今、県教育委員会にお願いをしているところです。文命中学校、足柄上地区では一番大きな中学校、あるいは1番、2番を行ったり来たりしているような状況の中学校でございますので、そのような中学校に対して県教育委員会に教職員の加配を頼む、お願いしますというところで、今、加配要請はしているところです。一人でも二人でも加配が得られたならば、今よりは少しきめ細かに一人一人の生徒に対応できるかなという思いでいっぱいです。

それから、二つ目、若い教職員を育てるという部分では、県教育委員会も問題意識を持っておりますので、研修を実施したりとか、文命中学校の中での研修があったりとか、教育委員会事務局としても指導主事が研修を実施したりとかということはやっております。とは言いながら、ばんたび、そこにいるわけではありませんので、学校現場にかなり依存してしまうところはあるのですが、今の良い状態、落ちついた生徒の状態、落ちついた、あるいは協力的な家庭の状況から、良い先生が育ってくれるのではないかと思っております。さまざまな総合的な部分で一人一人の教職員を育てていきたいと、それも深く広く、欲張りですので、深く広く立派な先生になってもらいたいということで今後も手だては打っていききたいと思っております。

済みません。長くなりました。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ありがとうございました。ぜひ、よろしくお願いします。

もう時間もありません。最後になりますが、開成町の魅力である子育て・教育環境を、「教育のまち かいせい」を、より充実させて選ばれる町になっていくことを願い、私の質問を終わりとしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（吉田敏郎）

これで武井議員の一般質問を終了といたします。